

2012(平成24)年度生物遺伝資源に関する
イネ小委員会及びNBRPイネ運営委員会 議事要旨

日時：2012(平成24)年10月19日(金)14:00~16:10

会場：国立遺伝学研究所本館2階会議室

出席者： 生物遺伝資源に関するイネ小委員長 倉田
NBRP イネ運営委員会委員長 奥野
芦刈、石川、江花、奥本、熊丸、土井、長戸、長村、野々村、廣近、
松岡、山崎、吉村 の各委員

欠席者： 川崎、北野、横井 の各委員

オブザーバー： 森脇(NBRP 推進委員)、安井(九州大)、久保、宮崎(遺伝研)

事務局： 研究推進課長、同副課長、研究推進チーム係長、事務職員
NBRP 事務局員

【議 事】

1. 第3期 NBRP イネの目標と計画(第2期までの成果をふまえて)

各機関から配付資料に基づき以下の報告があった。

(1) 遺伝研：第3期 NBRP の計画概要(全体)／野生イネ実験集団の拡充と情報整備

倉田委員長から第3期の計画として、特に野生イネ(近縁)染色体断片置換系統、野生イネ(遠縁)一染色体添加系統、Oryzabaseの充実化とデータ情報/リソースの提供について経過報告があった。また、第1期、第2期 NBRP 整備系統の品質保持及び系統分譲状況について報告があった。なお、今後の予定として、T65-AA ゲノム野生イネ間で多型検出可能な PCR マーカーの整備、近縁野生イネ5種に由来する染色体断片置換系統(IL)の収集と整備、遠縁野生イネ一染色体添加系統、リソースゲノム情報及び整備ILs情報のOryzabaseからの公開について説明があった。

(2) 九州大：新規突然変異系統の収集と TILLING オープンラボ

熊丸委員から、九州大の第3期の業務計画の概要について説明があり、そのうえで、塩基置換変異系統の収集と保存、TILLING法を用いたスクリーニングのためのオープンラボの開設、イネ突然変異系統群の収集と保存、第1期、第2期 NBRP 整備系統の維持・増殖・配布についての報告があった。

(3) 九州大：多様な自然変異に由来する高品質なイネ実験系統の整備

安井准教授から、九州大の業務計画のうち、多様な自然変異に由来する高品質なイネの実験系統の整備について報告があった。また、第1期、第2期 NBRP 整備系統の維持・増殖・配布についての報告があった。

(4) 名古屋大：自然変異解析のための新たなリソース開発 -NAM 系統-

土井委員から、イネ Nested Association Mapping(NAM)集団の収集・保存・提供について、業務計画、リソース整備の背景、NAM 集団を使った解析の例、イネ NAM 集団の収集組合せと世代促進計画、NAM 集団の遺伝子型決定について報告があった。また、今後の計画として、特に次世代シーケンサを使ったジェノタイピング法の選択と修得については、遺伝研と連携して行っていく旨の説明があった。

(5) 遺伝研：イネ統合データベース Oryzabase の利用状況と第3期の展望

山崎委員から、Oryzabase の運用 (Ver. 4 への完全移行、リソース情報、論文情報更新、
遺伝子情報更新、探索旅行記の e-book 化および旧カタログ (2007 年度版) 電子版作成、
国際連携、利用状況) の報告があった。なお今後の計画として、系統用の染色体ブラウザ
の作成、物理地図の IRGSP1.0 対応、リソースと成果論文の相互リンク、遺伝子関連論文
の backlog 削減、画像ギャラリーの完成 について説明があった。また第 3 期の展望につ
いては今後ご相談していきたいとの発言があった。

2. 意見交換等

第 3 期の目標・計画について

倉田委員長から、遺伝研、名大においては次世代シーケンス等が各系統保存事業とも関
連していく上で必至となってくるが、現時点ではその費用を NBRP で見込めないことから、
他の研究費獲得も検討しながら情報の付加や高品質化をすすめたいとの意見があった。

植物研究を活性化させるための取り組みの検討

系統リソース について

以下の意見があった。

- ・ 収集したものをそのまま提供するだけでなく、バックグラウンドの改善もはかりな
がら最終的に「イネ属多様性」としてカバーできるようなリソースを整備し、第 3 期中
で実績を上げ、ニーズをアピールしながら次期に繋げられるとよいのではないかと。
- ・ イネは、コムギ、オオムギ等にくらべ野生種も含めた広範囲のものとなっていること
もあり、NBRP の中でも今後発展性が高いリソースと言えるのではないかと。一方で、リ
ソース自身の発展については、事業レベルでは、未だ個々の研究の中で検証していく課
題もあると言える。
- ・ 現在の NBRP 中核的拠点整備プログラムでは、開発事業は想定されないため、野生イ
ネのアリル置換や組換え等の作業等については、技術開発を含んだ別プログラム (基盤
技術整備プログラム) に応募し、実施していくことを検討してもよいのではないかと。

その他以下について、紹介があった。

- ・ 11/21 (水) NBRP シンポジウムにおける発表について
- ・ 12/11 (火) ~ 14 (金) 分子生物学会における PR について

情報リソースについて (便利な WEB ツール、データベース、ユーザからの情報還元 によるデータ情報の充実化等)

Oryzabase/NBRP 情報センターからの発信の強化、及び論文情報の効率的な収集、デ
ータの充実化等について意見交換があった。

最後に森脇推進委員から、全体を通じ所感が述べられ閉会した。

以 上